

3-6 丘陵地景観

(1) 丘陵地景観の特性

里山として人々の営みの中で守り育まれてきた南部丘陵地には、シリブカガシなどの常緑高木に加えコナラなどの落葉樹林が植生し、河川、ため池なども自然に近い状態で残るなど、農業・酪農生産の場所と一体となって、四季に美しい自然環境が維持されており、本市を代表する自然景観となっています。

丘陵地の豊かな自然は、緑の景観として市民の生活に潤いを与え、レクリエーションの場となるだけでなく、ヒートアイランド現象の緩和など都市環境の保全にも重要な役割を果たしています。



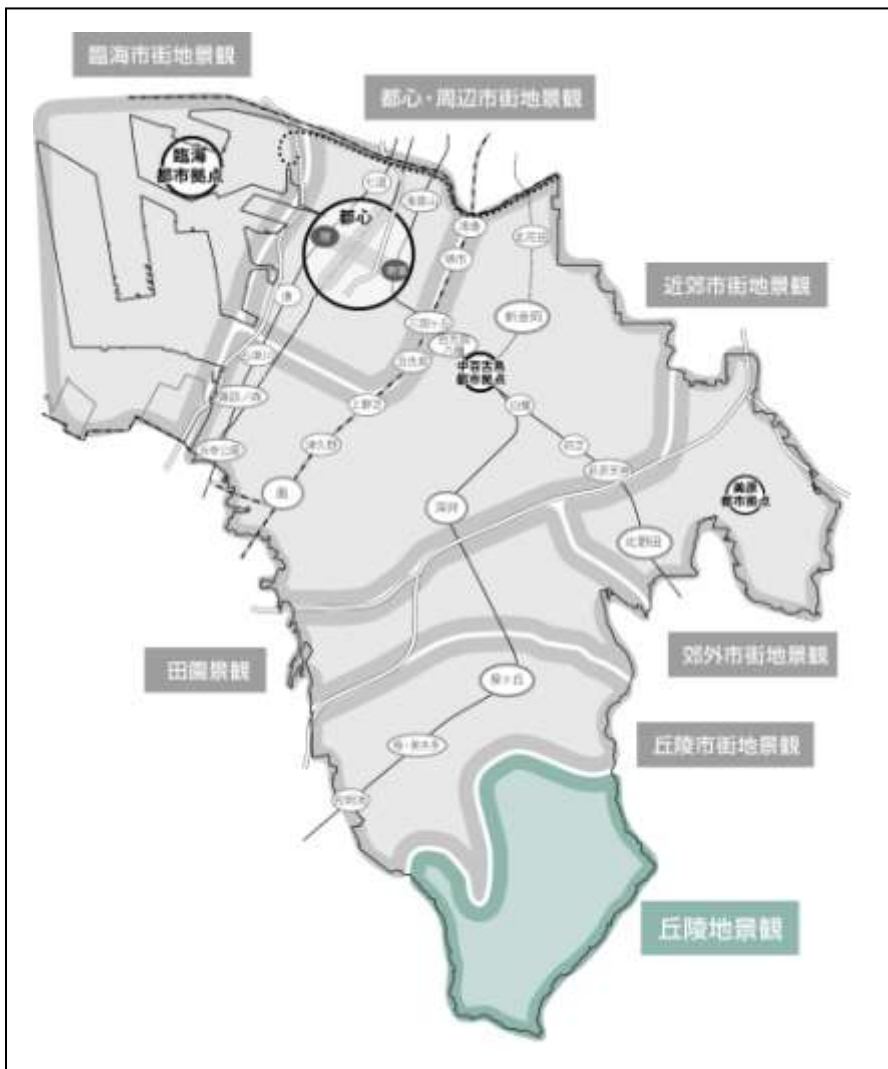
南部丘陵の里山と田園



内河池



鉢ヶ峯フラワー農園



1) 自然から見た景観特性

- ・河内長野市から続く標高 100m以上の山麓地形の南部丘陵地は、市街地のすぐ近郊にありながら、シリブカガシの群生地のほか雑木林、ため池、河川が育む多様な植生や動植物、生産の場、歴史資源があいまって、四季の変化に富む豊かな里山の景観を形成しています。
- ・鉢ヶ峯、ハーベストの丘、みかん畑や酪農団地、公園墓地の桜などの自然景観が密度高く立地しています。



1 ハーベストの丘

2) 歴史・文化から見た景観特性

- ・法道寺をはじめとする歴史的な景観資源が点在しています。法道寺は7世紀創建の名刹で、鎌倉時代の食堂、南北朝時代の多宝塔(いずれも国の重要文化財)など貴重な遺構が残されています。
- ・旧来からの農家住宅を中心とした農村景観が見られます。



2 法道寺

3) 市街地形成の経緯から見た景観特性

- ・全域が市街化調整区域に指定されており、谷間に形成された集落・田園景観がそのまま良く残っています。
- ・豊かな自然を活かしたレクリエーション施設(鉢ヶ峯フラワー農園、ハーベストの丘など)が立地しています。



3 和田川と農村景観



(2) 丘陵地景観の課題

丘陵地には豊かな自然が残されているものの、農業形態や生活様式の変化に伴い景観と生き物の多様性が減少しており、開発や残土処分などによる土地利用転換も樹林地を減少させています。また、レクリエーションの場として訪問する人が多く、放置されたゴミや不法投棄も問題となっています。

南部丘陵は農山村の暮らしや生産の場として活かされ、維持されてきましたが、引き続き市民などとの協働により身近な自然環境の保全に取り組むとともに、市民が自然や農業に親しむ場としてふさわしい活用を検討する必要があります。

(3) 丘陵地景観の方針

豊かな自然が維持され樹林地や農地、ため池、河川などが一体となった里山景観を保全しつつ、ゆとりある自然とのふれあいの場として活用を図るために丘陵地景観の目標を次のように定めます。

多様な自然と人の営みが一体となった丘陵地景観の保全

そして、この目標を実現するための方針を次のように定めます。

1. 農業の振興と市民協働により、丘陵地の豊かで多様な里山景観の保全を図ります。
2. 丘陵地に残る樹林地などの緑や、ため池、河川などの水辺といった、豊かな自然景観の保全を図ります。
3. 景観に影響を及ぼす行為を抑制し、周辺の自然と調和のとれた景観形成をめざします。

3-7 臨海市街地景観

(1) 臨海市街地景観の特性

堺の海はかつて茅渚(ちぬ)の海とよばれた美しい海で、中世には国際貿易都市として人・物・情報が交流しました。戦後は戦災の復興と軽工業から重工業への転換をめざして埋め立てと企業進出が進み、臨海部は工業地帯として発展し、時代とともに姿を変えてきました。現在は、新しい生産拠点としての再生が進んでおり、雄大な海辺景観と、工場が集積した産業景観とが合わさったダイナミックな景観が見られます。また、産業の構造転換にあたって、海や自然と触れ合える空間としての活用や、自然環境の回復の取組みも進んでいます。



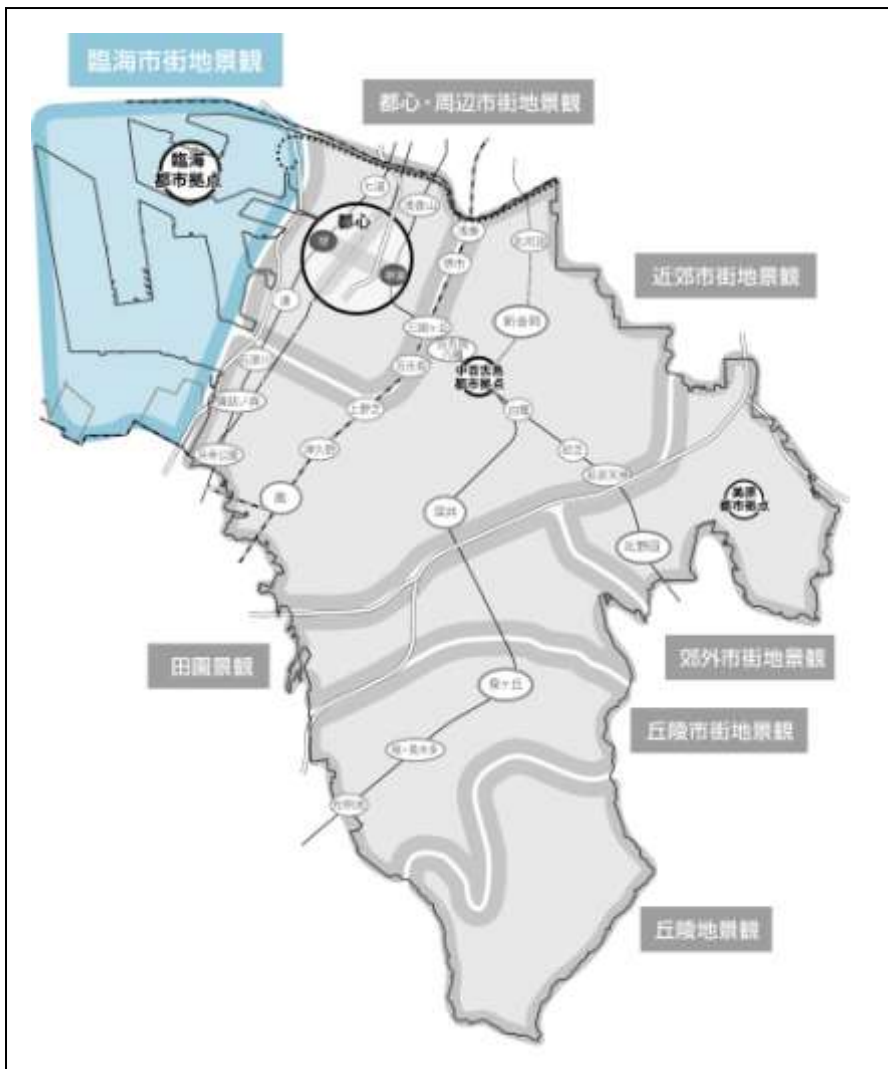
臨海市街地



親水護岸と緑地



共生の森づくりが進む堺第7-3区



1) 自然から見た景観特性

- ・大阪湾に面した埋め立て地で、スケールの大きい広がりある海辺の景観が特徴です。海に開けた場所からは、明石海峡大橋や美しい夕日を望むことができます。
- ・かつては大気汚染や水質悪化などの公害が問題となりましたが、現在は状況が改善されており、堺第7-3区での共生の森づくりなどの自然環境の回復・再生の取組みが行われています。



1 堺浜シーサイドマリーナ

2) 歴史・文化から見た景観特性

- ・昭和 30 年頃から臨海部の埋め立てが始まり、鉄鋼などの重化学工業が集積し、大阪湾岸の臨海工業地帯として発展してきました。



2 工場敷地の緑化

3) 市街地形成の経緯から見た景観特性

- ・民間活力の活用による産業集積の促進や商業施設の整備などが進められ、近年は複合商業施設が立地し、公園や広場が整備されるなど、海辺の景観形成が進み、憩いやレジャーの場所となっています。
- ・環境先進型の工場群や物流施設からなる大規模な生産拠点の形成が進んでおり、先進的かつスケールの大きいダイナミックな景観が見られます。
- ・J-GREEN(グリーン)堺(サッカー・ナショナルトレーニングセンター)が開設され、広域防災拠点の整備も進むなど、刻一刻と様子変化しています。



3 複合商業施設



4 大規模な生産拠点



5 J-GREEN(グリーン)堺
(サッカー・ナショナルトレーニングセンター)



(2) 臨海市街地景観の課題

臨海市街地は近年工場などの立地が顕著に進んでいる地域であり、その景観は大きく変わりつつあります。そのため、建築物等のデザインについて相互に調和を図っていくことが望まれます。

また、海に開かれた立地にあることから、対岸など海からの見え方にも配慮しながら、その親水性を活かした景観形成を進めることが課題です。

(3) 臨海市街地景観の方針

海に開かれた地域の特性を活かし、自然環境の回復とにぎわいの創出を図るとともに、環境と共生するエリアとして臨海都市拠点を形成するため、臨海市街地景観の目標を次のように定めます。

産業と環境が共生する躍動感ある臨海部の景観形成

そして、この目標を実現するための方針を次のように定めます。

1. 環境と共生するエリアとして、自然環境の回復や環境に配慮した建築デザインを誘導するとともに、親水性を活かし海に開かれた景観形成をめざします。
2. 大規模な工場や物流施設については、相互に調和した質の高いデザインにより、まとまりと活力のある景観形成をめざします。
3. 臨海部のまちづくりと連携し、水と緑の憩いの空間、商業施設など、にぎわい形成に配慮した景観形成を図ります。

地域別（第3章）の主な景観資源・景観特性一覧

景観類型	景観資源・景観特性
3-1 都心・周辺市街地 景観	<ul style="list-style-type: none"> ○百舌鳥古墳群周辺の落ち着いた緑豊かな景観 (仁徳天皇陵古墳、履中天皇陵古墳、反正天皇陵古墳、大仙公園など) ○古い町家などが点在する堺環濠都市地域や旧街道沿いの歴史的なまちなみ (山口家住宅、鉄砲鍛冶屋敷など) ○寺社などが集まり歴史を感じさせるまちなみ ○堺旧港の自然を感じられる憩いの空間 ○阪堺線とその沿線の昔懐かしい景観 ○海辺へとつながる大和川の広がりあるオープンスペース ○中心市街地のにぎわいと限界性の感じられる景観 ○広幅員の風格ある道路景観 (大小路筋、フェニックス通り、大道筋) ○古くからの工場の中に住宅が建ち並ぶ景観
3-2 近郊市街地景観	<ul style="list-style-type: none"> ○農地・河川・ため池などの田園景観 ○地域の歴史・文化が息づく古墳・寺社などの歴史資源 (ニサンザイ古墳、いたすけ古墳、御廟山古墳、大鳥大社、日部神社、百舌鳥八幡宮、金岡神社、家原寺、筒井家住宅、高林家住宅など) ○旧街道沿いの歴史的なまちなみ ○明治～昭和初期にかけて建設された良好な郊外住宅地の景観 (浜寺、上野芝、初芝など) ○公的住宅団地による整った住宅地景観 ○駅前を中心とした拠点のにぎわいある景観
3-3 郊外市街地景観	<ul style="list-style-type: none"> ○平野部の農地・河川・ため池などの田園景観 ○黒山の農村集落の景観 ○計画的に開発された郊外住宅地の緑豊かな整然とした景観 (大美野、さつき野) ○整然と区画割りされた木材工場団地の景観
3-4 田園景観	<ul style="list-style-type: none"> ○農地・河川・ため池などの田園景観 ○川筋に沿って樹林地や農地などが広がる自然景観 ○旧街道沿いに残る農家住宅などの伝統的な集落地景観
3-5 丘陵市街地景観	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に開発された郊外住宅地の緑豊かな整然とした景観 (泉北ニュータウン) ○谷あいの河川沿いに広がる農村・里山景観(和田川、石津川) ○商業施設などが集積した地区センターのにぎわいある景観
3-6 丘陵地景観	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然が維持されレクリエーションの場ともなっている南部丘陵地
3-7 臨海市街地景観	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模な工場が集積するダイナミックな景観 ○大阪湾に面し広がりのある海辺の景観 ○自然環境の回復など環境との共生が進む臨海部の景観